

英語科学習指導案

1. 日時 2018年6月12日(火) 第3校時
2. 場所 第1学年7組教室
3. 学年・組 第1学年7組

4. 使用教科書 PRO-VISION English Communication I. (桐原書店)

5. 単元名 Lesson 3 Part 1 The Sky's Your Only Limit

6. 授業観について

(1) 教材観

過去にスポーツの場において実際に男女差別が起こっていたことに対して、一人の女性が、女性の権利を主張するために立ち上がり、その際に、周りのサポートを受けながら、自分の可能性を広げていく主人公の姿を追いかけていく。ジェンダーフリーが叫ばれるこの時代において、男女差別について考えるきっかけになる。また自分の可能性を広げるためには、周りのサポートが必要不可欠であることも合わせて確認できる教材である。

(2) 指導観

身近に感じることでできるマラソンについての導入を行う。特に音読活動に力を入れ、ペアで行う場面、全体で行う場面を作り、深く本文の内容理解を図る。さらに音読活動においては生徒が、ただ声を出す、ペアで行う、と機械的な作業にならないように、各活動の前に、意義、目的を適宜確認する。

(3) 生徒観

スピーキング活動など、活動に対して積極的に参加し元気であるが、少し集中力が持続しづらい面もある。

7. 単元の評価基準

A. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B. 外国語表現の能力	C. 外国語理解の能力	D. 言語や文化についての知識・理解
① うまく表現できないことがあっても、既知の語句や本文中の表現を用いるなどして話している。(話すこと) ② 理解できないことや未知の語句があっても、推測するなどして読み続けている。(読むこと) ③ 読み手が理解しやすくなるように、書いたり、書き直したりしている。(書くこと)	① 聞いたたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の意見を話すことができる。(話すこと) ② 聞いたたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の意見を書くことができる。(書くこと)	① 語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に聞き取ることができる。(聞くこと) ② 説明などを読んで、重要な事実等を捉えることを通して、全体の趣旨を理解することができる。(読むこと)	① 疑問詞+to doの意味・用法について理解している。 ② 関係代名詞の非制限用法(目的格)の意味・用法について理解している。

8. 単元の指導計画(全6時間)

- \* 1時間目 Lesson 3 Part 1 の導入、単語の確認、本文理解、音読活動(本時)
- ・ 2時間目 Part 1 の復習、Part 1 のリテリング、Part 2 の導入、単語の確認、本文理解
- 3時間目 Part 2 の復習、音読活動、Part 3 の導入、単語の確認、本文理解
- 4時間目 Part 3 の復習、音読活動、Part 3 のリテリング
- 5時間目 Part 3 の復習、Part 4 の導入、本文理解
- 6時間目 Part 4 の復習、音読活動、Part 4 のリテリング

9. 本時(全6時間中の第1時間目)

(1) 本時のねらい

・授業者からの質問に対して、ペアで簡単な英語を用いてやりとりをし、またそれをクラスに向けて言うことができる。

・本文の内容理解を進める上で、走ることが主人公であるキャサリンにどのような影響を与えたのかについて理解することができる。

・ペアで音読活動に取り組むことにより、相手の意見や音を集中して聞き取り、合わせて本文理解を深める。

・疑問詞+to do の意味・用法を理解する。

(2) 本時の評価基準

(A①) うまく表現できないことがあっても、既知の語句や本文中の表現を用いるなどして話している。(話すこと)

(B①) 聞いたたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことについて、その概要や自分の意見を話すことができる。(話すこと)

(C①、②) ①語句や表現、文法事項などの知識を活用して内容を的確に聞き取ることができる。(聞くこと)

②本文を読み、走ることがキャサリンに与えた影響を理解する。(読むこと)

(D①) 疑問詞+to do の意味・用法を理解していること。(知識・理解)

(3) 本時の学習過程

時間	生徒の動き	教師の動き・留意点	評価基準・評価方法
導入(10分)	○オーラルイントロダクション ・授業者からの投げかけに答える。 ・ペアで考える場面はペアになって考える。	・本文に入っていくための意識付けとして、キャサリン・スイツァーの紹介をしながら、本文内容を追っていく。またそれに関する質問を生徒に投げかけ、考えさせる。 ・授業者の話す英語を頼りに生徒は問題について考えるので、ゆっくりと簡潔に話す。 ・最後に、走ることが彼女にどう影響を与えたのか、を強調して次の活動に移らせる。	A①(観察) B①(観察)

展開1 (6分)	<p>○新出単語の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者の後に続いて発音練習をする。</li> </ul> <p>○リスニング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズの音を確認するために、一度発音をする。</li> <li>・音声を聞いて、どのフレーズが何番目に聞こえたかをプリントに書き込む。</li> <li>・答えを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発音、アクセントの練習。その際、特に強調したい単語があれば取り上げ、確認する。</li> <li>・フレーズの発音を行う。</li> <li>・デジタル教科書を使用し、音声を流し、リスニング活動に移らせる。</li> <li>・リスニングに対する苦手意識を持たせないようにするため、各フレーズが何番目に聞こえたかに集中させる。</li> <li>・答えを確認させる。</li> </ul>	C① (観察)
展開2 (8分)	<p>○リーディングクエスチョン (8分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題文を声に出して読む。</li> <li>・オーラルイントロダクションを受け、教科書を使い、問題を解く。</li> <li>・自分の答えをペアで共有し、不明確な点を明確にする。</li> <li>・クラス全体で答えを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーディングクエスチョンを解く前に、オーラルイントロダクションで強調した部分を再度確認する。それにより、本文において必要な部分とそうでない部分を見極める手助けにもなる。</li> <li>・問題文を一度声に出して読み、再度キーワードの確認を行う。</li> <li>・実際に問題を解いた後、ペアで確認をし、問いに答えることができているか、文法的に間違っているところはないか、確認させる。</li> <li>・クラス全体で答えを確認する。</li> </ul>	C② (観察)
展開3 (6分)	<p>○立体構造トランスクリプト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要表現や、本文を理解する上で必要な文法事項の確認を行い、適宜プリントに書き込む。</li> <li>・授業者に続き、本文の音読を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文理解の手助けとなるよう、文法事項の説明を行う。必要であれば、日本語訳も加える。</li> <li>・あまり長く説明しすぎないようにする。</li> <li>・疑問詞+ to do の用法についても触れる。</li> <li>・本文の全体像をつかむことと、次の音読活動にもつながるように、一度授業者の後に続いて音読させる。</li> </ul>	D① (観察)
展開4 (19分) ○音読活動	<p>○チャンクシート (7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアになって、日英のチャンクシートを使用し、読む練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずはチャンク毎の意味を理解させるため、ペアで、日英チャンクシートを使用し、本文を半分に分けて、読む練習をさせる。</li> <li>・この時点から、続きの音読活動に円滑に進めるようチャンク毎の意味をしっかりと確認するよう促す。</li> </ul>	C①、② (観察)

展開4 続き	<p>○オーバーラッピング (7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を使い、目で追いかけているながら、教員が読むのを聞く。</li> <li>・教員と一緒にオーバーラッピングを行う。</li> <li>・その後、デジタル教科書の音声を使用し、①通常の速さ②1.5倍速③通常の速さでオーバーラッピングを行う。</li> <li>・しっかり前を向いて行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのくらいのスピードで読むのかを生徒に明確にさせるため、教員がモデルになり、一度本文を読む。その際、生徒は教科書を見て目で追いかける。</li> <li>・その後、生徒と一緒にオーバーラッピングをする。</li> <li>・通常音声の速さに慣れさせるために、①通常の速さ②1.5倍速③通常の速さでオーバーラッピングを行う。</li> <li>・また本文全体を一気に音読するため、全体像をつかむ、また音と音のつながりをより意識づけさせる。</li> </ul>	C① (観察)
	<p>○通訳読み (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PPTに映し出される教科書本文に関連した日本語訳に対応する英訳を考え発話する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PPTに映し出される日本語訳を英語に直すことにより、日→英の切り替えのスピードを高める。また教科書に関連した本文を英訳させることにより、本文の内容理解も同時に深める。</li> </ul>	C② (観察)
まとめ (1分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リテリングを行うにあたっての注意点を全体で再確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題となる、リテリングについて、注意する点を再確認させる。</li> </ul>	